

更級への旅

松尾芭蕉が歩いた 更科紀行街道の今・その15

更級を貫く千曲川サイクリングロード



「月の都」としての当地が誇つていいものに、千曲川西岸の堤防、通称サイクリングロードがあります。国土交通省千曲川河川事務所によると、部分的に途切れてはいますが、上田市から犀川と合流する地点まで約四〇キロ。旧更級郡東側の境界に相当します。法令上は「自転車歩行者専用道路」と位置付けられ一般車両は乗り入れが禁止されているため、自転車だけでなく、ジョギング、ウォーキング、散歩、一輪車など四季を通してたくさんの人や犬が行き来しています。実家が堤防の近く、旧更級村、現千曲市芝原にあり、幼いころから親しんできました。

一度は踏破しようと思ひ、冠着橋付近から自転車で初夏、北に向かつてたどったことがあります。午前十時ごろ出発。千曲市の八幡と中両地区を結ぶ平和橋を過ぎる辺りから、河川敷にはリンゴや桃、アズノの果樹園が広がります。自家用と思われる野菜畑には年配の人たちがちらほら。鳥の鳴き声もにぎやかです。千曲市域を出て長野市横田地区に入ると、道沿いに「救難地蔵尊」があります。道沿いに「救難地蔵尊」があり、赤色の帽子と肩掛けが目につきます。碑文には「千曲川水難の犠牲者の霊を慰めるため」とあります。建立は昭和十年代。ダムによる水量調節などで洪水の危険は現在、少なくなりましたが、お地蔵さんの前掛けも瓶に生けた花も新しく今も大事にしている人がいることが分かります。

この史跡の少し先の長野市小島田地区（旧更級郡小島田村）まで行く「更級橋」という名前の橋がありました。更級、埴科両郡をつなぐことからの命名だと思いますが、千曲市に合併前の更級市域からずっと離れたところにこの名前の橋があることに旧更級、埴科両郡の名前にこだわりのある人たちがいたんだなと分かり、不思議な感動を覚えました。自転車では犀川との合流ポイントまでは行けませんでした。交わる現場もいつか見てみたいと思います。あまり人を見かけないなと思つていたのですが、来た道を戻り、夕刻千曲橋辺りまで来ると、人が現れ出しました。堤防沿いの住宅街から年配の人たちが農具などを積んだ一輪車や軽自動車や堤防沿いに止め、河川敷で畑仕事に精を出しています。自転車で帰宅する高校生、買い物かごをいっぱいにした主婦、土手の斜面では、少女が雪上で使うそりで滑って遊んでいます。ボールを上手に投げ戻ってくるのを下で受け止め遊ぶ少年たち。河川敷でゲートボールを楽しむお年寄りの姿を見ながら



走る人、歩く人、風景楽しむ人…



風のうた

一、おまえがまだ
自転車に乗れなかったころ
父は荷台に乗せて堤防走った
川風浴びて口笛吹くと
おまえも真似て口とがらかす
鳴らなかつたけど
おまえが言ったのは
あーさらしなの風の音だね

二、父が昔に高校生だったころ
堤防はでこぼこで砂利道だった
川風浴びて歌っていると
闇の中にあるただ一人
晩飯何かと腹すかせながら
あしたは追い風 あー向かい風
談笑する同年代の人たち…。千曲橋
辺りは広場が整備されているせいもあり、とても親水空間らしい感じがしました。

そこから目を南、少し上に転じれば、今年、国の重要文化的景観に指定された「姨捨の棚田」と姨捨山の異名を持つ冠着山がその雄姿を見せています（左上の写真）。顔と半袖から出た肌は赤く日焼けしてヒリヒリしたましが、涼しい川風が吹き始め、全身をくるんでくれました。

最初に本格的にこの堤防を自転車
で走ったのは三十数年前、高校時代
でした。学校が千曲川東側の屋代地
区にあつたため、毎日片道四十分近
くをかけて通つていたので、特
に部活動を終えての帰り、堤防を走
りました。まだ砂利道だったような
記憶があります。車はもちろん人も
ほとんど歩いておらず、一人占めで
きました。大声を出しても人には聞
こえないような気がして、井上陽水
やアリスの歌をよく歌いました。
そんなことをまた思い出させてく
れたのが、更級地区在住の音楽愛
好家をつくる「棚田バンド」のメン
バー、金井栄一さんです。「風」が
テーマの歌があるといい」とおっ
しゃつていたので、詞を作ってみま
した（右に掲載）。早速、金井さん

三、おまえが一人で乗り始めると
父は後を追って堤防走った
川風浴びて口笛吹くと
おまえは両足地に着けた
遠くを見つめてる
おまえが聞かせた
あー川のうた あー風のうた

作詞・大谷善邦
作曲・金井栄一



が作曲してくださいました。フォー
ク調のとても親しみのあるメロ
ディーです。

最近ではジョギングのコースとして
楽しんでます。ゆっくり走ったり、
歩いたりしていると、すれ違う人た
ちのいろいろな声も聞こえてきま
す。ある自転車のグループは採石場
のある平和橋近くのポイントで立ち
止り、冠着山方面を眺めながら、「こ
の角度の光景がすばらしい」と言っ
ていました。朝方は冠着山から左右
に伸び下るいくつもの尾根筋を乳白
色の霞が帯のようにまとわりついて
います。佐良志奈神社近辺から戸隠
連山や飯縄山が見通せる光景も来訪
者に自慢したい風景の一つです。

心配なのは、国道18号（千曲川東
側）のバイパス建設がこの風情を壊
さないかどうかです。このバイパス
は上田と長野市篠ノ井の間の千曲川
西側域をつなぐもので、更級地区を
通過する道はサイクリングロード沿
いが予定地になっています。篠ノ井
からのバイパスは現在八幡地区を
通過し、代地区の手前まで来ていま
す。国道のバイパスは基本的に片側
二車線です。車がたくさん往来する
道ができる、沿線が乱開発された
例を各地で見ってきました。車の騒音
で水の流れる音は消されないのでし
ょうか。水鳥は生息地を奪われな
いでしょうか。千曲川の水辺に車を
気にしないでたどりつけるような対
策をしっかりと講じてほしいと思
います。

上の写真は、犀川（右）と千曲川
が合流する地点を北の空から撮影し
たものです。インターネット上の辞
書とされるウィキペディアの「犀
川」を紹介するサイトに載っていた
ものをダウンロードしました。

発行 二〇一〇年七月十七日
編集 さらしな堂
千三九九・〇八一三
長野県千曲市大字若宮二八四・六
（旧更級郡更級村）
（代表・大谷善邦）